

生涯学習講座たより

皆さんこんにちは、3月・4月に岐阜地区では「安政の大獄と梁川星巖」、滋賀地区では「安政の大獄と井伊直弼」の講座を行いました。郷土史編ということで3年目になりましたが、初めて講座にお越し頂いた方も多くいらっしゃいました。年度の最後の講座も無事に終わることができました。1年間お越し戴きました皆さん本当に有難うございました。

さて新年度の講座も近づいて参りました。今年度は「日本の危機に立ち上がった志士たち」と題して講座を行っていきます。毎年恒例の公開講座は「松下村塾をめぐる人々～吉田松陰との関わりを中心に～」と題して講座を行っていきます。



天保 13 年(1842)に松陰の叔父である玉木文之進が自宅で私塾を開いたのが始まりです。後に松陰の外伯父にあたる久保五郎左衛門が継ぎ、安政 4 年(1857)、28 歳の松陰が引き継ぎました。松陰は身分や階級にとらわれず塾生として受け入れ、わずか 1 年余りの間でしたが、久坂玄端、高杉晋作、伊藤博文、山県有朋、山田顕義、品川弥二郎など、明治維新の原動力となり、明治新政府に活躍した多くの逸材を育成しました。

今回の講座では吉田松陰が「門下生たちに何を教えていたのか」を中心に塾で行われていた教育について迫っていきたいと思います。松陰が安政の大獄で刑死になった後、残られた門下生たちが、困難に立ち向かいながら時代を変革していきますが、教育者松陰の姿に焦点をあてます。また大河ドラマ「花燃ゆ」であまり紹介されていない、松陰以後の松下村塾についてもご紹介していきます。多くの方のお越しを心よりお待ちしております。よろしくお願ひします。

松下村塾をめぐる人々

～吉田松陰との関わりを中心に～

- 【岐阜】 6/26 (金) 19:30～21:30
- 【本荘】 6/27 (土) 14:00～16:00
- 【大垣】 6/27 (土) 19:00～21:00
- 6/28 (日) 14:00～16:00
- 【岐阜】 7/3 (金) 19:30～21:30
- 7/5 (日) 14:00～16:00

※公開講座につき定員がございます



- <講師> 秋枝 博士 (志門塾 生涯学習部講師)
- <受講料> 公開講座につき無料
- <場所> 岐阜 志門塾岐阜本部 (岐阜シティータワー43)
- 本荘 志門塾本荘校 (岐阜市稲荷町 5-1-6)
- 大垣 志門塾本部 3F (大垣市林町 3-186-1)
- 長浜 志門塾長浜校 (長浜市八幡中山町 519-1)

松下村塾

天保 13 年 (1842) に松陰の叔父、玉木文之進が自宅で私塾を開き、松下村塾と名付けました。ついで松陰の外伯父、久保五郎左衛門がその名を継承し、子弟の教育にあたりました。安政 4 年 (1857) に藩校明倫館の塾頭を務めた吉田松陰がこれを引き継ぎます。藩校の明倫館は武士と認められた者しか入学できず、町・農民はもちろん、武士に仕えた足軽・中間なども入学できませんでした。一方松下村塾では武士や町民など身分の隔てなく塾生を受け入れます。

受講ご希望の方は、志門塾 生涯学習部までご連絡下さい。

TEL 0584-74-3011 E-mail akieda@shimonjuku.com



志門塾 生涯学習講座

松下村塾のすがた

松陰は塾生たちに数多くの言葉を残しています。
その多くは物事の核心を突き、心魂に響く言葉です。

万巻の書を読むに非ざるよりは、^{いづく}寧んぞ千秋の人たるを得ん。

一己の労を軽んずるに非ざるよりは、^{いづく}寧んぞ兆民の安きを致すを得ん。

【解釈】

多くの書物を読破するのでなければ、どうして長い年月にわたって名を残す、不朽の人となることができるだろうか。いやできはしない。

自分に降りかかる労苦を何とも思わないような人でなければ、どうして万民を幸せにすることができようか。いやできはしない。

【解説】

この言葉は「松下村塾^{れん}聯」というもので、松陰が27歳のときにつくったものです。竹に彫られ塾内に掲げられていました。

この言葉から松陰が塾生にどのような人物になってほしいかがわかります。

日々の努力を惜しまず万民を幸せにできる有用な人物になるよう塾生にのぞんでいたのではないのでしょうか。



関連史跡の紹介



野山獄跡（山口県萩市）

野山獄には、安政元年(1854)海外密航に失敗した吉田松陰が投じられ、隣の岩倉獄には従者だった金子重輔が投じられました。松陰は、そこで仲間の囚人たちに『孟子』の講義をするとともに自らも俳諧や書を学びました。また獄吏でさえも廊下で松陰の講義に耳を傾けたといわれ、前例のない教育活動を行いました。現在、当時の敷地の一部を保存して記念碑などが建てられています。



玉木文之進旧宅（山口県萩市）

松下村塾の創立者であり、吉田松陰の叔父である玉木文之進は、文化7年(1810)萩藩土杉七兵衛の三男として生まれます。11歳のときに玉木十右衛門の後を継ぎます。天保13年(1842)松下村塾を開き多くの生徒を教えました。松陰が10歳で藩校明倫館の助教授となったときの後見人でもあり、叔父からの教育も受けて成長しました。この場所は現在、当時の面影を残したまま保存され、この場所が「松下村塾発祥之所」となっています。